

2015年7月31日

大都会ニューヨークのオアシスを支えるセントラル・パーク管理委員会

一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所
研究員 大和則夫



ロックフェラー・センターから眺めたニューヨーク・セントラル・パーク

はじめに

今から140年以上前の1873年にニューヨーク・マンハッタンに誕生したセントラル・パーク。日比谷公園（16ha）の約21倍の340haもの広大な敷地内には、美術館や動物園、カルーセル（回転木馬）などもあり、年間利用者数は実に4,000万人を超えている。そのセントラル・パークをニューヨーク市から委託を受けて維持管理しているのが、セントラル・パーク管理委員会（The Central Park Conservancy, 以下「CPC」）というNPO法人。今回は、2時間半に渡ってセントラル・パークの園内を視察した後、CPCのMaura Lout氏とChristopher Cousino氏にお会いし、その活動内容や課題、今後のビジョン等についてヒアリングを行ってきた。

1. セントラル・パークの位置および概要

セントラル・パークはニューヨーク・マンハッタン島の中央部に位置し、南北方向は59丁目から110丁目に至る約4km、東西方向は5番街から8番街に至るまでの約0.8km、全周約10kmにも及ぶ広大な都市公園である。1962年には、アメリカ合衆国国定歴史建造物（National Historical Landmark）に指定されている。公園内にはメトロポリタン美術館やセントラル・パーク動物園、テニスコート、野球場などの施設もあり、冬季にはスケートリンクも設置される。また、以下の写真にもある通り、当公園は映画撮影などでも頻繁に利用されている。



写真：ホーム・アローン2の撮影で利用されたスケートリンク

出典（地図）：NYC Tourist.com

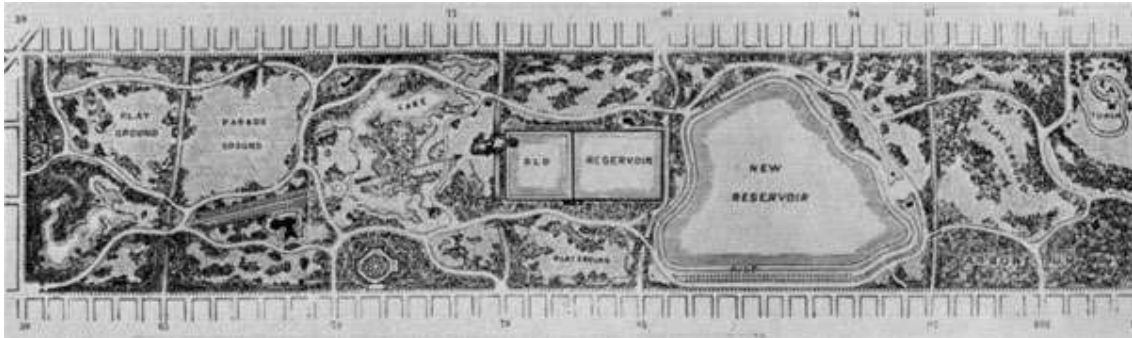


2. セントラル・パーク開園までの歴史

19世紀に入ると、ニューヨークは米国における金融、貿易、商業の中心都市として急成長を遂げ、それに伴い市街地の拡大や人口の急増が起こっていた。そのため、当時のニューヨークでは、公衆衛生および社会福祉の問題が深刻であり、やがて市内に大公園を設置する運動が活発になっていった。そして、1853年7月21日、ニューヨーク州議会は、米国初の大規模な人工の公共公園(public park)を創出するために、マンハッタンの中央部（central）に750エーカーの土地を充当することを法制化した。その後、1857年、公園委員会による公開競技設計が行われ、翌1858年に33の提案の中から、フレデリック・ロー・オルムステッドとカルヴァート・ヴォーによる“緑の芝生計画（Greensward Plan）”（図

1) が選定された。

(図 1) オルムステッドとヴォーによる Greensward Plan



出典 : Greensward Foundation website

3. 緑の芝生計画 (Greensward Plan) の概要

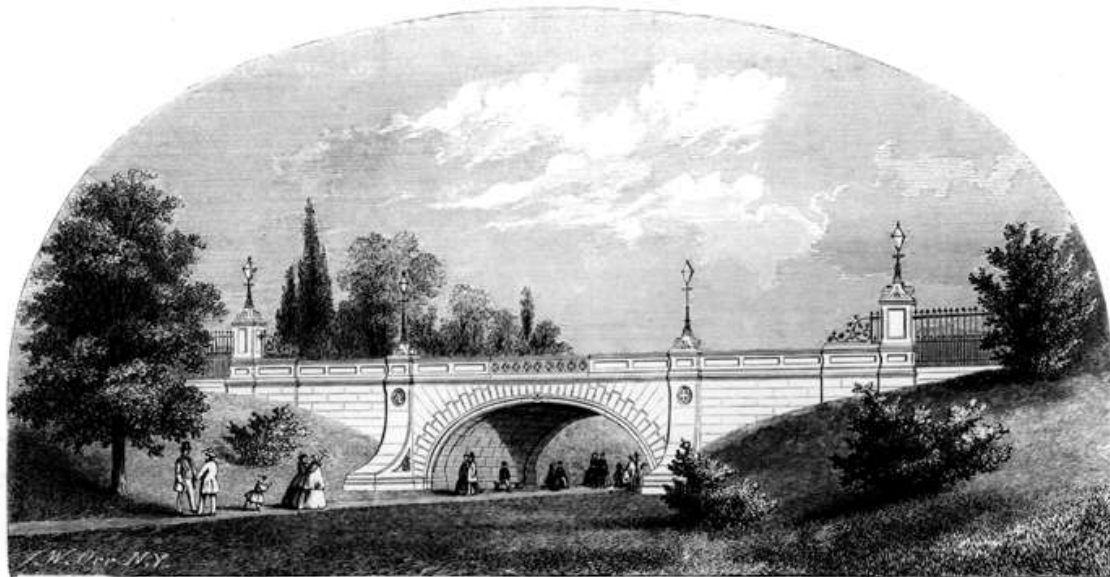
「緑の芝生計画」はベセスダ・テラスや公園内に架かる華麗な橋に見られるように、形式的な景観と自然主義的な景観を、建築的な装飾を用いて見事に融合させた点において優れていた。また、歩行者と馬車が交錯しないような歩車分離システムを導入した点は今日でも高く評価されている。公園中央部を東西に横断している道路は、当時においては革新的であり、公園内のアクティビティを侵害することなく車が公園を横断することを可能としている。ザ・モールと呼ばれる並木道は、セントラル・パーク内の唯一の直線である。



ベセスダ・テラスの様子



緑豊かな並木道：セントラル・パーク唯一の直線 ザ・モール



ARCHWAY UNDER TRAFFIC ROAD, FOR FOOTPATH, SOUTH EAST OF THE MALL.

開園当時のセントラルパークの様子

(出典) NYC Parks website

4. 開園後のセントラル・パークとセントラル・パーク管理委員会の設立

開園後のセントラル・パークは、1910年代までは原案に沿った維持管理が行われていたが、1920年代のスポーツ・レクリエーション活動の高まりと共に、田園風景としての芝生地は、次第に野球場やテニスコートに転用されていった。1930年代になると、動物園をはじめとする多様な施設が次々と建設させるようになっていった。その後、1960年代に入り、公園はバンダリズム（蛮行）の対象となり荒廃の一途をたどっていき、麻薬や暴力、殺人などの温床になっていった。こうした状況を改善するため、いくつかの市民団体がセントラル・パークの維持管理のためのボランティアや寄付を募る活動を始めた。その団体を前身として、セントラル・パーク管理委員会（CPC）が1980年に設立された。CPCは、2013年にニューヨーク市との間で、10年間に渡る公園管理に関する協定を締結しているが、当協定は1998年に最初に締結され、その後、2006年に契約更新されてきていることから、CPCに対する市の信頼が見て取れる。



Central Park Benches 1980s



Central Park Benches, 2013



Belvedere Castle 1980s



Belvedere Castle, Restored 1983

（写真左）荒廃していた頃の様子、（写真右）改善された後の様子

5. セントラル・パーク管理委員会（CPC）の活動内容

CPCは公園の日常管理を請け負っており、その活動範囲は、芝生の種取り、落葉木の処理、樹木及び花壇の手入れ、運動場の維持、落書きの修復、モニュメント、歴史的建造物の保存修復、森林の管理、下水処理装置の維持管理、公園内の湖・河川の保護管理などである。また、セントラル・パークという資産を利用し、環境・公園内の教育プログラムおよび若者、家族、コミュニティ、学校向けのレクリエーション・プログラムなども提供している。

6. ゾーン・マネジメント・システムの導入

約 340ha にもおよぶ広大なセントラル・パークを、高い技術を有した専門スタッフによって適切に維持管理するために考案されたのが、1995 年に導入された「ゾーン・マネジメント・システム」である。ゾーンは 49 の地理的ゾーンに分けられ、各ゾーンはゾーン庭園師 (Zone Gardener) が仕切り、技術者やボランティア・スタッフを管理・監督している。当システムの導入によって、ゾーン担当者は、各ゾーンに対する責任感、自信が生まれるとともに、明確で定量的な指標などが得られるようになったため、生産的な改良に繋げることができるようになった。

7. 公園利用に関する調査

管理委員会が 2010 年に 1 年間かけて実施した公園利用に関する調査によると、利用者のうち 69% がニューヨーク市内からの来園者で、3% がニューヨーク大都市圏エリア、その他米国内が 12%、海外からが 16% であった (下表)。また、活動タイプとしては、最も多いのが「ウォーキングや散歩、見物 (63.8%)」、次いで「休らい、付き合い (36.3%)」といった非活発的なアクティビティであり、「ローラースケートやジョギング、自転車」などの活発なアクティビティは 15% 程度である。

| Where visitors are from | | |
|-------------------------|-----|--------------------|
| NYC | 69% | 26 million visits |
| NYC metro area | 3% | 1 million visits |
| Rest of US | 12% | 4.5 million visits |
| International | 16% | 6 million visits |

| Type of activity | |
|---|-------|
| ■PASSIVE RECREATION, 85%, INCLUDING; | |
| Walking, wandering, sightseeing | 63.8% |
| Relaxing, socializing | 36.3% |
| Nature study | 15% |
| Dog walking | 11.8% |
| Photography and art | 5.1% |
| Commuting | 4.8% |
| Attractions, programs and events | 4.8% |
| Metropolitan Museum visit | 2.1% |
| Boating and fishing | 0.3% |
| ■ACTIVE RECREATION | |
| Roller-skating, jogging, bike riding | 15% |

8. 管理委員会（CPC）の収入

CPC は、セントラル・パークの年間維持管理費（約 5700 万ドル）の約 75%を自主財源によって調達している。その調達額の約 70%は寄付金であり、残りを行政からの支出で賄っている。調達額に占める寄付金額とその割合の多さが、セントラル・パークの特殊性であることは間違いない。セントラル・パークを取り囲むアップパー・イーストサイドやアップパー・ウェストサイドは世界有数の高級住宅エリアであり、その唯一無二の地域特性と、アメリカの文化特性である寄付行為が相まって実現できている。

おわりに

官民連携によって公園の維持管理を NPO に委託し成功を収めているニューヨーク・セントラル・パーク。これからの日本が迎える深刻な人口減少社会においても持続可能な社会システムを創り上げることが今の世代の義務だとするならば、現行のシステムを時代の要請に応じて積極的に変えていく責任も同時に有しているのだと思う。2020 年に開催される東京オリンピック以降も東京の持続的な成長を実現するためには、長期的なビジョンと戦略をもった上で、2020 年までに必要なアクションを起こしていくことが必要である。その意味において、2020 年東京オリンピックは「これからの東京の公共空間」を形作る、重要なマイルストーンになるだろう。セントラル・パークの研究を通じて、そのようなこと気づきを得ることができた。